

土壌づくり

6月30日未明、アメリカで行われたサッカーワールドカップの決勝トーナメント、日本対ブラジル戦はアディショナルタイムに逆転ゴールを決められ、惜しくも1-2で敗れました。サッカー王国ブラジルを追い詰めた要因の一つに、ゴールキーパー鈴木彩艶選手の守備力があります。後半13分ジュニオールがペナルティーエリア内に侵入し、強烈なシュート放つ指先でボールに触れゴールを防ぎました。何度もピンチをしのいだ鈴木選手のプレーを“ビッグセーブ”とメディアが報じました。野球にしても、バレーボールにしても日本のスポーツは守備を重視して鍛えられてきました。そんな中、私がスポーツの指導を始めた頃、師匠から「守りをいくら固めても勝てないよ。引き分けが精いっぱいだ。」と言われました。その言葉を基に、攻撃練習を重視したことがありました。しかし、この試合から力の差のある相手と戦うには、“守備力”という土壌が必要であることを再び学びました。



6月29日、2年生の技術科では、恒例の“袋栽培”が開始！まずは、土壌づくりです。昨年の残土に、腐葉土と肥料を混ぜ、土を蘇らせます。つまり残土は 不要と いうわけではないのです。更に麻袋に入れて上下に振り攪拌する。この土壌づくりが、しっかりと根を這わせ、おいしい野菜生み出します。



2年生は、マナー教育サポート協会の鈴木さんを講師にお迎えして、“社会出ても役立つマナー

講座”を開催しました。7月1日より3日間職場体験に向かうために準備です。受付における対応、自己紹介、お礼、お辞儀、挨拶、返事、などなど身体を動かし、実際に練習をしながら取り組みました。3日間、職場体験に出るということは、初対面の方々と接するという事。お辞儀の型、挨拶の声など第一印象は大切です。その型も声も「相手を思う気持ちです。」と鈴木さんは教えてくださいました。挨拶は、人間関係づくりの土壌なのです。



帰り道、電車内のモニターを見ると“じまんはじばん”なる動画がながれておりました。東京都23区西部から埼玉県西部にかけて、「武蔵野台地」を中心とする安定した堅固な地盤の上に路線を展開してます。2018年には「いい地盤の日アワード」大賞を受賞したとのこと。“土壌”についてこのHPを書き進めていた私はその偶然に一人笑ってしまいました。とはいうものの堅固な土壌に清瀬中は存在します。教員集団には生徒愛の堅固な土壌ができています。もちろん生徒を守る守備力も。



先日、終点の小手指駅で高齢者がバッグの中を探し、困っている表情。声を掛けると「財布を電車に落としたかも」と。その車両は車庫へ進みましたから、彼にはどうすることもできません。ホーム後方から来た駅員さんに私が「すみません、この方・・・」と問いかけると「これですか？」と手に持った財布を見せました。彼の表情は困惑から安堵へ。「7両目の座席の下に落ちていました。」拾い上げてきてくれたのです。これは、ファイン西武 です!!